

令和4年度尚志館高等学校自己評価表

尚志館高等学校

教育基本方針	校訓『不屈不撓』の精神をバックボーンに、各自の資質を高め、国や社会に貢献できる人間を育成する
教育目標	志を常に高く持ち、多様化する時代に即応した教育、変化する社会の要請に応える教育、知・徳・体の調和のとれた教育により、生きる力を身につけ、国や社会に貢献できる人間を育成する
努力目標	①学習指導を徹底し、学力の向上を図る ②生活指導を徹底させる ③きめ細かな進路指導の徹底により、学力・適性に応じた進学就職の実現を図る ④部活動の推進・強化

1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的効果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学校教育目標と経営方針	学校教育目標の具現化	教職員間の共通理解のもとに、教育目標の実現を図る	課題や生徒の実態をふまえた目標を設定し、具現化に努める	3.8	本校設置学科、6学科において、各部署で生徒の実態を踏まえ、計画、実行、評価、改善を実践し、継続的な改善を目指している。クラウドを利用した職員間グループウェアを稼働させ、各校務分掌毎に共有フォルダを置き、教職員間の共通理解と業務効率化、紙資源の節約を目指している。今年度から新1年生を対象に校務支援システムを導入した。

2 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学級経営	学級目標の具現化	学級目標に沿った学級作りを行う	学校目標や学級実態に応じた学級経営・ホームルーム活動を行う	3.6	コロナ禍での各クラスの生徒状況の把握を目的とし、昨年度よりも定期的な学年会、学科会の機会を増やした。担任、副担任で連携を図りながら、学級目標達成に向けて、クラス経営を行った。
教科指導	わかる授業展開と工夫改善	創意工夫された学習指導の実践	シラバスを作成し、学習目的や学習方法を生徒に説明する 効果的な授業を行うために教材研究や研修を深める	3.8	年間授業計画を基に授業を展開している。一方では、生徒の学習意欲啓発のためにも、シラバスの生徒への提示と説明に時間を割く必要もあり、最終的に学習効果につながっているかの検証も重要である。 コロナ禍により、授業のスタイルを考え、工夫するきっかけとなった。ICT教育の追い風となっている。担当者によっては、創意工夫により、生徒の興味を引く授業が増えつつある。従来の授業形態での学習効果との比較について、常にその検証が必要である。
特別活動	生徒会活動・学校行事の充実	生徒会活動の充実 学校行事の充実	生徒の自主性・自発性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる 効果的な学校行事になるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する	3.9	生徒会の朝の挨拶運動、清掃活動など、自主的な取り組み、学校行事へ積極的な参加が目立つようになり良い傾向である。立案、計画、運営に時間を要する場面もあるため教師側のサポートは不可欠である。 コロナ感染症の状況に応じて、可能な範囲で学校行事を工夫し、実施。体育大会への保護者参加は3学年のみとした。最後の体育大会だけでも参加できたことについては好評であった。修学旅行については感染対策を取りつつ実施することができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	尚志館生としての意識を持たせ、自信と誇りを持つ生徒を育成する	基本的な生活の確立を図る 交通ルールの遵守、ネットモラルなど安全教育の徹底	3.7	年度末に近づくとつれ、全校生徒が集まることが可能となり、全学年の生徒を対象とした礼法指導、同時に声をしながらの挨拶指導など、これまでに制約がありできなかったことができるようになった。 事故防止のための指導は通学手段別指導、講習会、クラス毎の指導で継続的に進んでいる。SNSの使用による心身への影響や生活習慣の乱れについては、保護者との連携も必要である。
進路指導	進学・就職指導の充実	系統的・計画的な進路指導の実践	進路実現のために、個別指導や進路相談・三者面談などを計画的に行う 生徒の能力や適性に応じた進学・就職指導	3.9	担任、副担、学科、進路指導部で協力し、生徒に応じた指導を実践した。個別指導、三者面談を重ね、生徒の進路実現のため努力した。就職希望者は100%就職内定。医療福祉科については、国家試験4年連続100%合格を達成し、看護学科についても、指導体制の改善、工夫が功を奏し、100%合格を達成することができた。普通科からの国公立大学への合格が増え、特進科においては、在籍の84%の生徒が国公立大学へ合格、また、難関私立大学へも合格した。
保健衛生	心と身体の健康に留意させ学習環境を整える	保健指導の徹底 体育指導の徹底 防火・防災訓練 環境衛生の整備	心と身体の健康を適切に管理する能力を育てる 運動技能を高め、体力向上を図る 防災についての意識の高揚を図る 学習にふさわしい環境を整える	3.8	コロナ感染症の拡大に伴い、心の問題を抱える生徒が増えた。定期的な学年会を増やすなど、職員間での情報共有の場を充実させる試みを実践している。関係機関との連携を図りながらできるだけ早期に対応したい。コロナ感染症の状況を見極め、防火・防災訓練は計画通り行うことができた、継続的な訓練が有効である。環境衛生の整備については、生徒会の美化部との協力で校内美化活動に取り組み、花壇の整備は一年を通し計画的に実施し、良い環境を維持することができた。ゴミ分別の徹底は引き続き今後の課題である。
広 報	広 報	定員確保のための広報活動の推進	入学案内・パンフレットの作成 中高連絡会・体験入学の実施 中学校訪問・学習塾訪問・説明会の実施 ホームページ・Eメールの管理 PTA・中学生の訪問受け入れ	3.9	広報部を中心に、全職員による献身的な取り組みが入学者増につながっている。入学案内、パンフレットの工夫、ホームページの充実などにより学校の様子を発信している。ホームページはリアルタイムで更新し、手作りの広報活動を心がけている。また、中学校PTA、中学生の来校については柔軟に対応している。地区別説明会、中高連絡会、体験入学、進学相談会、出向説明会をさらに充実させる一方で、入学後、保護者、在校生の満足度をさらに高めていくことが課題である。広報の担当する本校への入口はもちろんのこと、進路指導部が担当する出口(進路実現)がさらに責任重大であり、広報と進路指導の連携強化に努めている。
部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への積極的な参加を奨励し、学習との両立を図る 活動を通して、コミュニケーション力を高め、たくましく人間に育てる	3.7	コロナ禍、部活動にかなりの制約があったが、感染症対策をしっかりと行いつつ、可能な範囲で積極的に取り組んだ。挨拶等で評価されるコミュニケーション力を高め、地域から応援される部活動を目指す。大会、試合の結果だけではなく、部活動が学習への取り組み、日々の生活面へ好影響をもたらす指導を日々実践していくことを目標としている。一方、強化部については学校生活、大会実績についても更に高いレベルでの研鑽、厳しさが求められる。
評 価				3.8	